

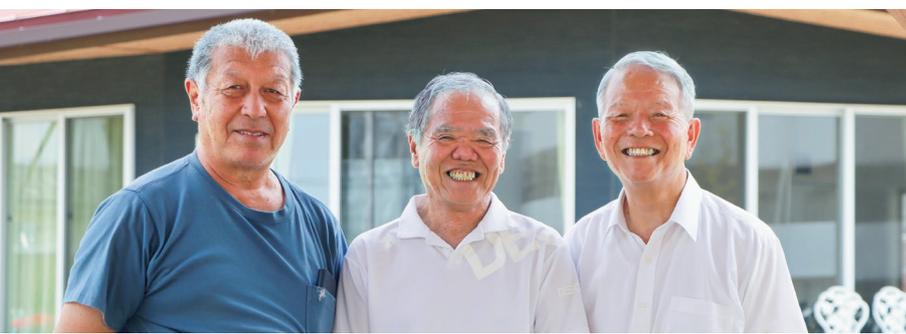
気持ちは同じ

違うのは行動

自治会とボランティア団体が協力し、飼い主のいない猫の問題解決に取り組み始めた木山下辻団地。携わる人たちの思いを聞きました。



木山下辻団地で生まれた子猫



木山下辻団地自治会 甲斐一見さん、井芹哲史さん、杉野武さん

餌やりで増え続ける猫 団地の生活環境に影響

熊本地震の後、災害公営住宅として整備された木山下辻団地は、4棟のうち1棟で被災時に飼っていた動物一代に限り飼育が許されています。しかし、一部の住民が団地外から来た飼い主のいない猫に餌を与えてしまったことで、猫が団地に住み着いてしまいました。ふん尿や鳴き声に悩む住民も多く、「洗濯物が干せない」、「猫の影響で体に異常がある」、「玄関ドアの前で子猫が生まれてドアが開けられない」など、自治会に多くの苦情が寄せられています。

自治会としても、回覧文書を作成し餌を与えないよう住民に促したり、役場に相談して餌を与えている人に



1階のバルコニーは猫が塀に登らないよう対策。ふん尿被害で布団などを干すことができない

直接お願いしたりしましたが、状況は変わらず、最近も子猫が生まれ、その数は増えています。各棟の棟長と協力し、猫の吐しゃ物やふん尿の清掃も行っていますが、餌を与える人がいて、猫が増え続ける状況ではきりがありません。

この状況を変えるために、役場から捕獲機を借り、3、4匹捕獲したこともあり。いざ捕獲してみると、その後どうすれば良いのかわからず、その時改めてこの問題解決の難しさを痛感しました。

それからノウハウを持つ団体を探しましたが、個人の力ではなかなか見つけることができず、役場に再度相談したところ、役場から御船保健所、そしてボランティア団体「犬猫の会」につないでもらうことができました。